

第8回学習会を、平成20年9月26日（金）19：00～20：00 下山門中学校にて行いましたので報告いたします。

第八回目の内容

講師 重枝一郎先生（千代中学校教諭）

- 1 教師の心構えと技術
- 2 実践ビデオ紹介
- 3 エクササイズの体験活動

1 教師の心構えと技術

○学校の存在意義を語る

- ・学校にしかできないことがある
係活動や委員会などの役割活動，対人関係の体験活動を系統的にできる。
- ・知識だけでなく心も育てたい
自他の人間の存在価値を尊重し，自分の生活をコントロールし，社会的に自立した形で自己責任を積極的に果たそうとする人格の形成。

※4月と9月はポイントの月。9月にもう一度，意識づけるために語る。

○学校の目的を学級経営を通して達成する

学級集団＝閉鎖集団（選べない・出られない）→安定すると意欲的
ストレスがたまると弱いものいじめ

※ハツカネズミやモルモットの実験でも証明されている。閉鎖集団の中にストレスを与えると弱いものが攻撃される。

※クラスを通して，学校の目標を獲得させる。

そのためには，集団と個別対応の両方が必要。流れの中でどちらかに傾いていく。

P（パフォーマンス：指導面優位）とM（メンテナンス：援助面優位）の『バランス感覚』も重要。

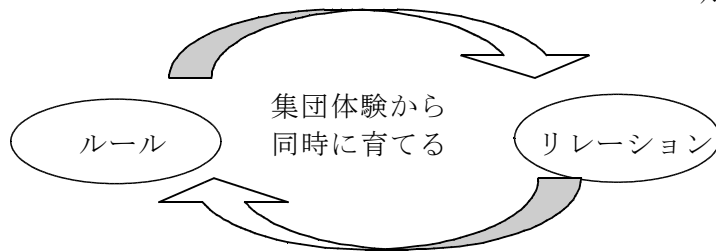
盛り上がりはよいがピシッとしていない→Pを強める

かたいなあ～→Mを強める

○学級づくりのツボは「ルール」と「リレーション」

- (1) 3つのルールを重視
 - ①他者と関わるときのルール
 - ②集団生活を送るためのルール
 - ③みんなで活動するときのルール
- (2) ルールの定着のさせ方
 - ①守ることの意味を事前にチェック
 - ②デモンストレーションでわかりやすく手本を見せる
 - ③エクササイズを通して実際に守らせる

- (3) ルールの効果を実感させる・・・ルールの効果をみんなで振り返る
- (4) ルールを守るとリレーションもできてくる・・・人づき合いの不安がなくなるから
- (5) そして、リレーションはルールを守らせる・・・この状態はいいから守りたい
ルールは自然と守られる



※「リレーション」とは集団づくり、つまり人づき合いのことである。
 ただ、ルールを守りなさいではなく、ルールを守ったら人づき合いがうまくいくと生徒に納得させる。
 例えば、人の話を聞くときのルールを考えさせる。「こんな姿勢で聞いたらどう思う？」と、悪い姿勢を見せたり、よい姿勢を見せたり、実際にさせてみたりする。そうすれば、ルールを守ることと人づき合いの関連が理解できる。生徒が体感し、納得するような例を挙げたり、エクササイズを取り入れることで、「ルール」と「リレーション」の関連をはかりたい。

○「ルール」と「リレーション」を定着させることと、教師自身の傾向（自分らしさをいかしたい）

PM理論 (P：パフォーマンス・指導面優位) (M：メンテナンス・援助面優位)

- PM→満足型
- M →まずは仲良くなりたいたい→ルールの定着に取り組む
- P →まずはまとめたいたい →リレーションづくりに取り組む
- p m→なれあい、放任、一貫性なし、計画性なし

※クラスの状態は、教師の指導スタイルが生徒にどのように受け取られているかに左右されている。つまり、教師の傾向がクラスに大きく関わっている。
 教師は評論家的に生徒を見ているが、教師も同じように見られているのである。
 だからこそ教師は、自分自身の指導傾向を分析し、意図的に自分に足りない要素を取り入れていく必要がある。
 P型とM型の両方が融合されたときに、満足型クラスとなる。ここに近づけていくのが理想である。p m型は集団の退行をまねくクラスであり、最も望ましくない。

○集団の見方

ルールとリレーションが統合されてくると・・・

集団は成熟 (クラスの持ち味が組織化してくる)

凝集 → 統合 → 変化 → 組織化 → リーダーシップの分散
 (親しく) (ひろがる) (協力) (ふさわしさ)

その反対は **集団の退行**

解体 → 分裂 → 安定化 → 混沌化 → リーダーシップの拡散
 (ギスギス) (はなれる) (完璧にはなれる) (いじめ) (自己中)

○集団の育て方

①人と関わったり，集団に参加・活動するためのルールやスキルを教える

②それをクラスの枠の中で実践させて，成熟感を獲得させる

※PとMのバランスや個別対応と集団対応のバランスをとる。
ルールを守れば「楽しい・安心できる」を実感させる。エクササイズを通して，途中でコメント，評価，刺激を入れながら，体得させていく。

2 実践ビデオ紹介

「グルーピング・トレーニング」

教師が黙って指で人数を提示する。例えば，片手で人数を示すときは，男女別々で提示された人数のグループをつくる。右手で2人，左手で2人など両手で人数が示されたときには，男女混合で示された人数のグループをつくる。

トレーニングの目的は，自分のことだけを考えるのではなく，全体を見てふさわしい行動をとることである。つまり，ひとりぼっちをつくらないことである。グループに入れない生徒を「こっちにおいで」と呼んであげる。さらに，手をとって連れてくるなどの行動をとらせるよう，教師が促す必要がある。また，あぶれそうな生徒がいるときには，あえて提示された人数を守らなくても，グループに入れる方がよいということを生徒にわからせる。

ビデオは，中学2年生が学年集会形式で9月に行ったものです。この生徒達は，中学1年生の4月にも同じトレーニングを行っています。

まず，重枝先生が黙って片手で4を提示しました。生徒は急いで4人グループをつくっています。4人グループができたところは座っていますが，2人の生徒があまって立ったままです。そこで重枝先生の毅然とした，きびしい言葉が響きます。「先生が一番気に入らないのは，自分たちが4人になったから座っている生徒達だ。あまった人は淋しい思いをしているのに，自分達だけ安心している。家ならそれでいい。ここは学校だ。みんなが安心するにはどうすればいいのか，よく考えろ。手をひいて，自分のグループに入れてあげると安心するだろう。全体をよく見ろ。」

次は右手で3，左手で3が提示されました。男子3人，女子3人のグループです。男女のバランスが違うので，グループが完全にできあがることはありません。さすがにさっき重枝先生の指導が入ったので，どのグループも座りません。まわりを心配そうに見ています。そこで再び，重枝先生の指導が入ります。「いつまで立っているのか？判断するリーダーはいないのか？全体を見て何とかしようとするのがリーダーの姿。先生，いつになったら座れるんですか？とか，先生これは無理ですとか，何とか言えよ。思いやりのない行動は絶対ダメだ。全体を見る意識をもち，判断するのがリーダーの役目だ。」

このビデオを見ながら感じたのは，何のためにこのトレーニングを行っているのか。生徒にどんな意識をもたせ，何を身につけさせたいのか。それを，教師がはっきりと生徒に伝えなくては意味がないということです。教師の言葉かけ次第で，トレーニングの様子はまるで違ったものになるでしょう。実際にビデオで，トレーナーとしての教師の様子を見ることで，トレーニングの意味を実感できました。

グルーピングトレーニングとセットで，整列指導も行われていました。これも，リーダーの意識を高めるためです。整列の時に，自分のまわりだけに気を配るのではなく，全体を見る意識をつけさせるものです。「全体，前にならえ」という号令で，前の方だけは「前にならえ」をしているのに，後ろの方は手もあげていないということは，よくあることです。リーダーも前の方だけが手をあげていたら安心して，座らせることがあります。そうではなくて，きちん

と全体を見て判断する力をつけさせるトレーニングを行っていました。また、しゃべらないで整列すること。学級委員も「よく並んでくれてありがとう」という顔で座らせること、などの指導が入っていました。

「トラストフォール・トラストアップ・人間知恵の輪」

ペアとなり、1人が倒れるのをもう1人が支える。あぶないので、デモンストレーションは細かくやる。お互いの信頼感がないとできないエクササイズである。

ペアで足の裏をくっつけて座り、両手を握って「せーの」で立ち上がる。次は4人で輪になってやる。ふざけて手を離したりすると危ないのできちんと注意してから始める。気持ちをそろえる心地よさや協力する大切さを体験し、信頼感を培う。

5～6人で手をつないで輪をつくる。手や身体をくぐらせて人間知恵の輪をつくり、それをほどこいていく。身体をつかったり、触れたりすることで親密感が増す。

重枝先生も一緒になって、楽しく活動しています。教師と生徒のリレーションづくりにもなっています。身体をつかったエクササイズは、理屈ぬきで盛り上がりやすい。まさに、身体で覚えるといった感じで、信頼感や親密感アップにつながっていると思いました。

「やる気の花束」

始業式で校長先生が話された「目標をもってください」をうけて展開していく。2学期の目標を厚紙に書き、ひもをつけて背中につける。その目標に対して、その人のやる気を高めるメッセージを書いてもらう。信頼関係から発せられる仲間のメッセージは、絆意識を高め、自己肯定感を高める。信頼することは心地よいか感動的といった感情と結びつける。

ビデオを見ると、列車ごっこようになっていました。とても楽しそうな光景です。今の生徒達は子どもの頃に、列車ごっこをしたことがあるのだろうか？と、ふと考えました。今は外で遊ぶにしても、遊ぶ場所もなければ不審者などの心配もある時代です。

ひつつきもつつきしながら楽しそうにメッセージを書いています。自分のは見ることができません。そこにまた、楽しみがあります。何が書いてあるのか後で見るワクワク感。このエクササイズは2時間扱いで行っています。メッセージをお互いに書いた後に、書いてあることをきちんと清書して、感想を書きます。

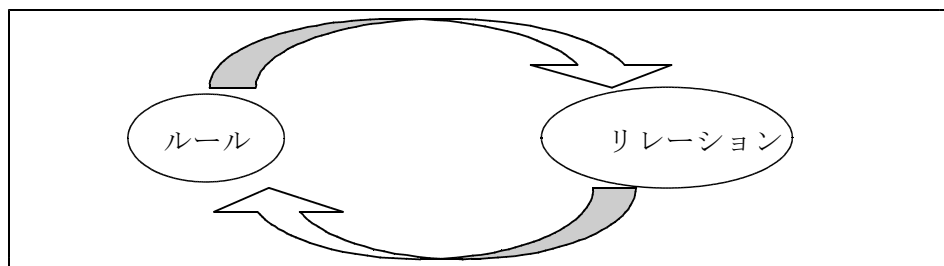
重枝先生は、ほとんどの活動に「応援メッセージ」を取り入れています。テストの目標をたてたら、応援メッセージを書いてもらう。係の仕事も一人一役制にしており、誰が何の係をしているのかをお互いが知っておくようにします。そして、どう仕事をしていたのかも評価しあいます。このように、いろいろな場面で積み上げていくことが、リレーションづくりにつながっているのです。これこそが、「集団づくりに筋を通す」ことです。教師が自分自身の傾向を知って取り組むことが大切です。まずは、「質より量」です。

例えば、「掃除をする意味を考える」という時も、ブレインストーミングでとにかく一人一人に、思いつくことすべてを書かせます。付箋紙にどんどん書かせます。そして、みんなの考えをKJ法で分類し、全員にキャッチフレーズを考えさせて、ポスターを書かせる。このように、何をやらせるにしても、教師側の組み立て方として、集団づくりを意識しながらという「筋」とおしていくのです。そうすれば、ブレがありません。

また、どんな活動でもイントロが大事です。何の目的で何のためにその活動を行うのか、そこをきちんと生徒に納得させることが教師の大きな役割です。それは、日常的な活動でも同じです。重枝先生は、小さなことを徹底することにこだわっています。「凡事徹底」です。例えば、イスを入れる、かばんをたてる、机の運び方など。そのこだわりは、日常の中で徹底しています。そういう、ルールを守らせる活動と並行して、リレーションづくりの活動を取り入れていくこと。そのことが自然と、ルールとリレーションの統合に結びついていくのだと感じました。

「お誕生日おめでとう」

ビデオで紹介されたエクササイズを体験しました。4人グループで行いました。まずビデオでは、イントロの部分が紹介されました。黒板に下記の図が書かれています。



この図について、重枝先生は生徒に説明しています。「ルールやマナーという、それにしぼられている気がするけど、そうではなくて、人間が集まると必ずルールやマナーが必要なんだ。今だって先生の話をちゃんと聞いているから、先に進んでいる。ルールとリレーションの2つが、学校では絶対に大切。どっちが先かは、ニワトリが先かたまごが先かと同じようなもの。人が集まるところには、ルールとマナーがあって、人間関係がつけられている。」

そして、ルールとマナーを実感させながら、リレーションが自然に生まれる「お誕生日おめでとう」のエクササイズとなるのです。

エクササイズに入ると、まず集団づくりを意識して、リーダーを集めて教師が指示を出します。私たちも4人グループの中からリーダーを決めて、重枝先生のところに集合しました。そこで出された指示を、リーダーはグループのメンバーに確実に伝える必要があります。その時に、ポジティブ・リスニング（前向きに人の話を聞く）を意識させます。リーダーのつぶやきをうなずきながら聞かせることです。

リーダーからはルールが説明されました。班に1本だけペンを準備します。誕生日を祝っている一枚の絵があります。同じような絵だけど、どこかが違う絵が廊下にはってあります。それを一人だけ見に行っているのですが、見に行ったときには絶対にしゃべってはいけません。しゃべると減点されます。違う部分にペンで印をつけます。このようなルールでした。

ルールを理解したら、さっそく作戦です。私たちのグループでは、絵を4つに折ってお互いに見てくる範囲を分けることにしました。また、絵を見ながら「ここら辺があやしそうだ」と話し合いました。順番は、リーダーが1番で左まわりに見に行くことにしました。このように、グループの中で自然と自分たちなりのルールができました。これはリレーションの中で自然発生的に生まれたルールです。さっきの図の意味が腑に落ちます。

ゲーム開始です。さすがに私たちは大人なので、しゃべって減点されることはありませんでした。しかし、さっそく我がクラスでこのエクササイズをやったところ、子ども達はついうっかり廊下で「わかった!」とか「やったー」などと声を出してしまいます。そこをわざときびしく「ルールだから」とジャッジ。2分間活動停止にしました。すると、他の班はどんどん進んでいくのに自分たちができないことに、あせりはじめます。『ルールを守らないと、楽しくない』ことや『自分がルールを破ると、みんなに迷惑をかける』こと。『ルールを守ると、簡単そうだけど意外と難しい』ことなどを実感したようです。逆をいえば、ルールを守れば楽しい雰囲気ができるということでもあります。ルールを守ることの抵抗感を緩和することにもなります。

また、我がクラスでは同じ生徒が何度も見に行く場面もありました。そこは、途中で止めて注意をしました。それでは要領も悪いし、よいリレーションとはいえません。このように、教師は生徒の様子をしっかり見て評価しながら、ねらいを明確にしていけばよいのです。「こうならなければならない」と授業に入り込みすぎると、逆に生徒が見えなくなります。教師側も余裕もちながら生徒の様子をしっかり見て、必要に応じて止めてほめたり、刺激を与えればよいのです。

そういった教師の意図は、生徒が書いたワークシートに反映されます。それは、生徒がねらいを理解したあられでもありません。

また、さらに学級通信にエクササイズのねらいと何人かの生徒のワークシートを載せることも有効です。重枝先生は10分で学級通信を書き終えるそうです。その気楽さが大切です。学級通信を書くことが苦にならないようにすることは、学級通信発行の秘訣です。通信に載せることで、「昨日こんなことをしたね」と振り返ることができたり、「昨日こんなことをしたのに、なぜ気づかないんだ」と生徒に訴えることもできます。また、保護者に学級での取り組みを伝えることにもなります。気負わず楽に学級通信を発行していきたいものです。

振り返りのワークシートの内容は、「みんなの意見をまとめようとした人は？いい考えを出した人は？友達の考えをほめた人は？」などです。（ワークシート参照）それを書く時間が取れないほど短い時間で体験エクササイズでしたが、その短い時間の中で、ワークシートに名前が書けるほどの交流ができていました。その場ではじめて会った先生方とグループを作った活動でしたが、「これはあやしいのでは？」と言っていたところが当たっていた時は、「やはりここが違ってましたよ」「当たりましたね」などとよい雰囲気でも話していました。また、2つ以上違うところを見つけてきた人には、「すごい、すごい」と拍手していたり、自分自身が見に行く番の時は、必ず1つは見つけてこないという責任感のようなものも生まれていました。つまり、リレーションが自然にできていたということです。大人の私たちでさえ、夢中になってゲームに参加しているのですから、生徒達は楽しいにまっています。楽しい中に大きな意味があり、実感を伴って学んでいけるところが、エンカウンターの魅力だと感じました。

また、プリントが2枚とワークシートさえあれば、誰でも行うことのできるエクササイズです。この気軽さがよいのです。工夫するのは、イントロの部分と活動している生徒の様子をしっかりと見つめること。必要に応じて止めて、ほめたり刺激を与えたりすること。最後の振り返りでもう一度、エクササイズの意味をおさえること。できれば学級通信を10分！？くらいの短時間でつくること。その後の学級で日常的に、「あの時、こんなことをしてこうだっただろう」と関連づけていくことです。

我がクラスでやった後の、生徒の反応は「新聞紙でチャレンジと同じくらい楽しかった」でした。ぜひ先生方も、自分のクラス用にアレンジしてやってみてください。

今回の学習会のキーワード

- 学級集団＝閉鎖集団（選べない・出られない）
- 学級づくりのツボは「ルール」と「リレーション」
- PM理論（P：パフォーマンス・指導面優位）（M：メンテナンス・援助面優位）
 - PM→満足型
 - M →まずは仲良くなりたいたい→ルールの定着に取り組む
 - P →まずはまとめたいたい →リレーションづくりに取り組む
 - p m→なれあい、放任、一貫性なし、計画性なし
- 集団の成熟
 - 凝集 → 統合 → 変化 → 組織化 → リーダーシップの分散
 - （親しく）（ひろがる）（協力）（ふさわしさ）
- 集団の退行
 - 解体 → 分裂 → 安定化 → 混沌化 → リーダーシップの拡散
 - （ギスギス）（はなれる）（完璧にはなれる）（いじめ）（自己中）

♪学習会に参加された先生方の感想♪ (参加人数 27名)

- ビデオ撮影時の子ども達のカメラに対する緊張感もあまり感じられず、ほぼそのままの授業なんだと受け取りました。私は社会人ですが(部活の外部指導者です)企業にも取り入れるところがかなりあるなと思いました。
- PMのバランスの取り方はいつも難しいと感じているところです。どのくらいのさじかげんか分からなくなるときがあります。また月曜日からがんばります。
- わかりやすかったです。特別支援学級でもやってみると、とても生徒の反応がよかったです。また、わかりやすかったと言っていました。少しずつかみくみくんでやっていこうと思います。(言葉のキャッチボール、アサーショントレーニングをやってみました。)
- ルールとリレーションが相互につながっているというのが、なるほど!と思いました。ルールというと堅苦しいイメージがありましたが、ルールが「楽しい」「安心」につながるのだなあとまさにその通りと思います。自分の生徒との関わりに自信がなくなることも多いですが、自分を消して、変えるのではなく、不足した部分を補い、いいところは伸ばしていくのが大切なのだと思いました。
- 初めて参加しましたが、自分自身がすごく興味深く惹きつけられました。現在担任をしていますが、生徒指導で悪戦苦闘しています。そんな時に今日の学習会に参加して、少し今後どうしていったら良いかが見えたように感じます。是非今日やった「お誕生日おめでとう」をやってみたいと思います。また参加したいと思います。
- あっという間に時間が過ぎてしまいました。生徒達にも今日私が感じた満足感のようなものを味わわせたいと思います。明日からの生活(学級)でMを増やしたいと思います。
- またまたすぐ実践できそうなお話でした。前回の「毒の話・・・」生徒にしました。次の日の学級の目標は「毒を吐かない」になりました。明日また生徒にすぐ話します。今日はずちの若い衆を2人連れてきました。
- 初めて参加させていただきました。とても勉強になりました。すぐにでもクラス、学年で取り組んでいきたいと思えます。
- 初参加。面白かったです。私の学校では4月から人権担当者(私!)が中心となって、毎月「コミュニケーション学習」を行っています。エンカウンターとかソーシャルスキルとかやっています。今日はその学習の時に、どういうスタンス、構えでやればいいのかがよくわかりました。ありがとうございました。
- 今日はすごく疲れていました。行くのやめようかなとも思いました。でも来てよかったです。エクササイズが楽しかったからです。おみやげにいただきうれしいです。学年でやってみます。ありがとうございました。
- 一ヶ月ぶりに重枝節を聞けて、「あ〜そうだ」と思うことがたくさんありました。ありがとうございました。また参加しますね。
- 先日は校内研修会でのご指導ありがとうございました。本日も大変勉強になりました。ありがとうございました。以前ありました、エクササイズ特集をまた希望しています。よろしくお願ひします。